

令和元年度 広島県青少年交流団四川省派遣事業等 報告書

○広島県青少年交流団四川省派遣事業 及び 四川国際姉妹都市「四川をアジワウ」サマーキャンプ
(8/2～7)

No	氏名	性別	学校名	学年	ページ
1	小川 和音	女	AICJ 高等学校	2	2
2	佐々木 隼	男	広島市立基町高等学校	1	3
3	浅利 朱音	女	広島県立福山誠之館高等学校	1	4
4	田島 惇帆	女	広島大学附属高等学校	1	5
5	森 ひなた	女	広島大学附属高等学校	1	7
6	野田 桜子	女	広島女学院高等学校	1	9
7	神田 菜月	女	広島女学院高等学校	1	10
8	阿部 峻也	男	修道高等学校	1	11
9	中村 姫良里	女	広島県立広高等学校	2	12
10	永目 瑠璃	女	広島商船高等専門学校	2	13
11	蛭江 日菜実	女	広島市立舟入高等学校	2	14
12	講武 遥菜	女	広島市立舟入高等学校	2	15
13	福本 有花子	女	広島市立舟入高等学校	2	16
14	阪井 奏澄	女	広島県立広島国泰寺高等学校	1	17
15	佐々木 創	男	広島大学附属福山高等学校	2	18

○「三国故里の旅・想像を超える四川」日本高校生訪中事業 (8/1～6)

No	氏名	性別	学校名	学年	ページ
16	平下 未悠	女	広島県立広島高等学校	1	19
17	大矢 美羽	女	広島女学院高等学校	2	20
18	松川 祐史	男	修道高等学校	1	21
19	入川 芽衣	女	広島市立舟入高等学校	2	22
20	大足 心愛	女	広島市立舟入高等学校	2	23
21	高雄 希	女	広島市立舟入高等学校	2	25

想像以上の発展。そして新しい友達。

AICJ 高等学校 2年 小川 和音

私は今回、この四川省派遣事業に参加をする上で、コミュニケーション能力の発達と、関心の深い中国語の基礎に触れることを目標にしていた。実際に中国を訪れた際、文化や習慣の違いに上手に対応できず、辛いと感じることもあったが、私は多くのことを学び、吸収することができた。

まず、一つ目に学んだことは、日本のメディアが発信している中国のニュースがこの国の全てでないということだ。空港から出た後に乗ったバスの中で見た、成都の街並みへの動は今でも忘れられない感覚だった。

人口の多さを物語る、幾つもの高層マンションに道路いっぱい並んだ車。人口の多さは想像以上で驚かされた。中国ではキャッシュレスが普及していた。キャッシュレス専用の自動販売機やレジなどがあり、発展途上という印象を良い意味で覆された。また、成都企画館で、電車国内路線図を見たり、実際にバスに乗ったりした事から、公共交通機関も決して劣っていないと感じた。中国の発展は、想像よりも遥かに上だった。



二つ目に学んだことは、言葉が通じなくても、そこで諦めずに、コミュニケーションを取りたいという意思を伝えれば、大丈夫だということです。三日目に、内江市の中学校を訪れた際、書道体験をしたり、ダンスを披露していただいたりした。日本で流行っている韓国の音楽が、中国でもダンスに使われていてとても驚いた。共通の文化は、たとえ言語の通じない相手でも心を繋ぐ架け橋になるのだと身を持って実



感した。その後、同年代の子のお宅に二泊のホームステイさせていただいた。中国語が分からなく、緊張した私に拙い英語で話しかけてくれたり、翻訳機を使っただけ多く、コミュニケーションを取ろうとしてくれたりした。ホームシスターのお友達と共に、ショッピングに行ったのだが、皆フレンドリーで積極的に話しかけてくれた。また、お客さんだからと言って、バス代やお菓子代を払ってくれたり、信号機の無い道路を横断する際に腕を引っ張ってくれたり、私が簡単

な中国語を話すと喜んでくれたりと、中国人の優しさに触れる機会が多かった。英語、日本語、中国語、どの言語も互いの共通言語では無く、会話に時には苦戦したこともあったが、ジェスチャーなどを使って感情を表現をする練習にもなり、良い機会だったと切実に思う。

最後に余談だが、最終日に訪れたパンダ繁殖施設では、大人のパンダや子供のパンダ、レッサーパンダに心から癒された。

この研修を通して、私は中国と日本の文化の違いに驚くと同時に、さらに異文化について知ってみたいと感じた。また、以前から興味があった中国の言語についても、興味がより深まる機会となった。共に研修に参加した日本人メンバーや、中国の新しい友達と沢山交流をし、自身のコミュニケーション能力も向上できる有意義な六日間だった。



四川省派遣事業で学んだこと

広島市立基町高等学校 1年 佐々木 県

私は今回の派遣事業で、実際に中国に行って、見て、体験し、ただ観光旅行をするだけでは分からない慣習や、生活環境を知ることができました。また、地元の方々のやさしさに触れたことで姉妹都市四川省について親近感を持ち、更に興味が湧きました。加えて、ホストブラザーをはじめ訪問先で出会い親切にいただいた皆さんや、現地で合流し共に行動した山梨県の高校生との出会いを通じて、様々な価値観の人と接することの大切さを感じました。

私のホームステイ先は、5人家族で大規模な集合住宅に住んでいました。ご両親は、毎日朝早くから夜遅くまで働きに出ているため、おばあさんが家事や幼い弟の面倒をみていました。こうした家庭は決して珍しくはないようで、他のメンバーのホームステイ先も同様でした。このように、多くの人が早朝から夜遅くまで精力的に働いていることが、中国の大きな経済力に繋がっているのではないかと感じ、とても印象に残りました。

ホストブラザーは、普段朝8時から夜の8時まで学校がありますが、訪問時は夏休みだったので、翌日は他の数人のメンバーと合流し、内江市内を散策しました。その移動中、スマホが使えず困っていると、露店のおじさんが「Wi-Fiを使っているよ」と声をかけてくれました。おかげで連絡をとることができ、中国の方々の温かさに感謝しました。

広島では中国からの情報が乏しく、一部の偏った報道により中国に対して不安で冷ややかな感情を抱いてしまう人もいます。しかし、少しの間でも、お互いに接する機会を持つことで違いを認め合える友達になれるのではないのでしょうか。もし、反対に日本人に対して先入観を持たれたとしても、私たちは今回の訪問で受けたように誠実で温かみのある心意気と行動で、国際交流を活発化していくべきだと考えます。そうした意味でも、この度の派遣事業は大変意義深いものだったと思います。

最後に、今回の事業に関わっていただいた方々に感謝します。たくさんのことを学び、反省する機会となりました。これからの糧にしたいと思います。ありがとうございました。

内江市の集合住宅群



大通りに並ぶ露店



四川省訪問報告書

福山誠之館高等学校 1年 浅利 朱音

この研修で最も印象深かったことはホームステイです。私は、内江市第七中学校の生徒の家に3日間ホームステイさせていただきました。その時、彼女の友人達と交流する機会がありました。私は中国語がほとんど分からないので、話ができるかどうかとても不安でしたが、彼女たちは、英語やジェスチャーなどでたくさん話しかけてくれました。日本のニュース番組で報道される中国人はマナーが良くない、非常識だなどといったマイナスイメージがとても強いですが、少なくとも私が出会った中国の方々は、人に気配りができる明るくて優しいフレンドリーな人達でした。また、夜に散歩に行く機会もありました。その時訪れた公園では夜の8時前にも関わらず、たくさんの人がダンスやキャッチボールをしていて、とても賑やかでした。日本ではあまり見られない光景に驚いていると、七夕節が近いからだと教えてくれました。中国の七夕節は、バレンタインデーのようなロマンティックな日だとも教えてくれました。同じ七夕でも、笹に短冊をかけて、願い事をする日本の七夕とは大きく異なっていて、国が違うと文化も大きく異なるのだと改めて感じました。

交通事情も日本とは大きく異なっていました。中国の道路は日本より広く、車の量もとても多かったです。交通渋滞緩和のために、中国では車のナンバープレートによって車を使えない日が決められているそうです。またアプリを使うことで、誰でもレンタル可能な自転車がいたる所がありました。中国では、排気ガスなどが原因で大気汚染が問題になっていると思っていましたが、自転車は環境にも優しく、空気もきれいでした。

私はこの研修旅行で、メディアでは取り上げられない中国、現地ではしか体験できないことをたくさん経験することができました。今回の研修で学んだことは、自分から動くこと、先入観を捨てることの大切さです。外国では、言葉も文化もマナーも日本とは全く違います。自分からコミュニケーションを図りに積極的に動かないと何も始まらないし、間違った先入観を持つことは異文化に対するの偏見を持つことになるため、異文化理解の大きな壁となります。メディアで報道されるその国のイメージだけで、その国の人たちを判断し偏見を持つことはとても危険です。そのため、実際にその国の人たちとの交流を通して、どのような国か知ることができる民間交流は、先入観を捨てるためにも大切だと実感しました。これからも、実際に様々な文化を持つ人と交流し、いろいろなことに自分から動いていくことで、異文化理解をより深いものにしていきたいです。また、情報化社会の現代では、簡単にたくさんの情報を手に入れることができるため、正しい情報をうまく見極められず、中国について様々な誤解を持っている人がたくさんいると思います。そんな人達に、今回実際に見た中国について伝えることで少しでも誤解を解き、日中双方の友好の架け橋になれたらいいと考えています。

最後に、この事業に携わったすべてのみなさん、このような機会を設けて下さり本当にありがとうございました。



四川省訪問報告書

広島大学附属高等学校 1年 田島 惇帆

私は今回中国四川省に行ってきたたくさんの経験をして多くのものを得ることができました。今回の中国訪問は、私にとって英語の学習を始めてから初めての海外渡航でした。この事業にはホームステイのプログラムがあり、言葉が通じるのか、コミュニケーションが取れるのか不安だったため、参加を決めるのは私にとってかなり思い切った決断でした。しかし今回の四川省訪問でそんな不安が吹っ飛んでしまうような経験がたくさんできました。

今回の事業の中で一番心に残ったのはホームステイです。交流をさせてもらったのは内江市第七中学校の生徒さんです。私がホストファミリーと会って最初に驚いたのはホームステイパートナーとそのお姉さんが日本の俳優にとっても詳しくなことです。彼女たちは日本のアニメもよく知っていて共通の話題で盛り上がることができました。同時に中国に対しあまり興味がなかった自分を情けなく思いました。その後ホストファミリーの家に向かうときに初めて中国のタクシーにりましたが、このタクシーが私にとって二つ目の驚きとなりました。私たちのスーツケースがタクシーの後ろのトランクに入らなかったので中に入れるのかなと思ったら、トランクが閉まらないままタクシーを走らせたのです。私はスーツケースがタクシーから落ちないか気が気ではありませんでした。幸いスーツケースは落ちないまま家につきました。その後もタクシーに乗る機会が数回ありましたが、ドライバーの格好は皆私服で誰かと大きな声で電話しながら運転したりする人がいたり日本のタクシーとの差異に驚かされました。ホストファミリーと内江の街に出かけ洋服店に立ち寄ったとき定員さんはほとんど話しかけてこなくて気軽に服を見ることができ、服のサイズが合わなかったときは何も言わなくても別のサイズを持ってきてくれてとても居心地がよかったです。日本の洋服店では定員さんがいつも大きな声で呼びかけていたり試着のときにずっと話しかけてきたりと居心地の悪さを感じる 때가たまにあります。これも日本と中国の差異だなと感じました。ホームステイを通してホストファミリーとたくさん話をしました。お互いに英語でコミュニケーションを取り、通じないときは翻訳アプリを使って会話をしました。彼女たちと話するのはとても楽しく、時々笑いも起こりました。私は今回のホームステイで母国語が違う人と話す楽しさ、自分の英語が通じる嬉しさ、言いたいことがうまく言えないもどかしさを知りました。伝えたいという気持ちがあれば表情やジェスチャーなどでも気持ちが伝わることも実感しました。今回の経験は私の異国間でのコミュニケーションに対する不安を異国間におけるコミュニケーションへの楽しさに変

えてくれました。この経験を活かし今後はより一層英語を中心とした語学の勉強に励んでいきます。

最後に、今回私に中国四川省訪問という素晴らしい機会を与えてくださった方々に感謝します。ありがとうございました。



四川省交流に参加して

広島大学附属高等学校 1年 森 ひなた

私がこの四川省交流事業に参加したのは、中国を知る為だ。私にとって中国とは「近くて遠い国」であった。経済発展が急速に進む中国と、隣国である日本。歴史的見解の隔りや領土問題がメディアで報道されており、中国の人は反日感情が強いのだろうと思っていた。しかし、実際に四川省を訪れ、中国と日本の様子を比較するにつれてその印象は変わった。ここに中国と日本の様子を比較して気づいた点を代表して三つほど挙げたいと思う。

一つ目は、人々の様子である。四川では夕方になると広場に人々が集まり、バドミントンやダンスなどをして楽しむ光景が見られた。日本ではその様な人々の交流は希薄な様に思える。様々な発展が見られた四川の中に残る仲睦まじい光景は、予想とは異なる良い点だと思った。

二つ目は、下水道についてだ。ホームステイ先のお風呂やトイレは正直綺麗とは言い難いものだった。また、パンダ繁殖基地では雨の影響で基地全域のトイレの水が流せなくなり大混乱に陥った。日本の下水道は非常に精度が高いのだと痛感した。

三つ目は、教育についてだ。ホストシスターの通う学校ではレギュラークラスとキークラスの二種類があると教えてくれた。キークラスとは専攻分野に特化するクラスのことであるという。キークラスに通う彼女は毎日休憩なしの授業と宿題に追われ、趣味を嗜む時間もないと嘆いていた。その為、全員が共通して平和教育などを受ける機会は少ない様で、原爆について問うてみると、よく知らない、楽しい話をしよう、と濁された。

これらを知ることができたのは、共通言語である英語でコミュニケーションが図れたというのが一つの大きなファクターだ。しかし、私自身はもちろんのこと、ホストファミリーも英語が完全に話せるわけではなかった。むしろ、互いに簡単な単語や文法しか分からず発音も不完全な状態で、ホストペアレンツに至ってはハローもグッバイも知らなかった。しかし、ホストファミリーは私の拙い英語やジェスチャーから想いを汲み取ろうと、翻訳機を駆使しながらも頑張ってくれた。そして、私自身も彼女の伝えたいことを理解しようと目を見て笑顔で接した。最後にはホストシスター達が、「私たち親友ね!」と言って抱きしめてくれた。また、ホストマザーが「グッバイ」と知らなかったはずの英語で送り出してくれた時は目頭が熱くなった。今までも何度か英語圏でのホームステイをしたことはあったが、いつも言いたいことが完璧には伝わらずどこか疎外感を感じ仲が深まらないまま帰国することが多かった。それにもかかわらず今回、この様に仲を深めることができたのは、共通言語が不完全な中で互いを理解し合おうとする前向きな態度が両者にあったからに他ならないと思う。

日中関係の悪化がメディアによって大々的に報道される今、私達は現地を知り理解しようとする前向きな態度を忘れてはならないと思う。実際に四川省を訪れて、そこに住む

人々は反日感情どころかこんなにも日本人である自分のことを理解しようとしてくれているのではないか、と内省した。迂遠な様ではあるが、国民性は、とかあの国は、と集約的なものを見方をするのではなく、個人として互いを理解し合おうとする気持ちを両国民が持てば、それが日中の関係改善の礎になるのではないかと思った。この学びを多くの人に広められる様に、学校内などで積極的に広報していきたいと思う。この様な貴重な機会を提供していただき本当にありがとうございました。



大切な友達

広島女学院高等学校 1年 野田 桜子

私は昔からアジアの国々に興味があり、今回の四川省派遣事業に応募しました。研修中にはたくさんのことを学び、感じました。今回は心に残っていることを報告します。

私の一番の思い出は、ホストファミリーとの時間です。2日間一緒に過ごしたホストファミリーは私にとって心の支えでした。出会った時から優しい笑顔で迎えてくれて手をつないでくれました。緊張していた私はそれで心がほぐれました。英語も通じず、私もほとんど中国語が話せませんが、漢字を書くことや、ジェスチャーを使うことによってお互いの気持ちを伝えました。会話の中で「三国志」が出てくると話が盛り上がり、中国の歴史を勉強しておくとお話がしやすいということが分かりました。また、ホストファミリーの家では中国のっていましたが、実際はそれぞれの家に家庭料理がありました。私は鶏肉を辛く煮込んだものをご飯の上に野菜と一緒に乗せて食べました。家族との穏やかな時間でした。



ホストファミリーには中国の歴史も教えてもらいました。オールドストリートに連れてってもらい、昔の中国の人々の銅像や建築を見ることで、タイムスリップしたような気持ちになりました。そこでは時間がゆっくり流れているような気がし、歴史の中を自分も歩いているようでした。そしてホームステイ最後の夜はみんなで中国のお寺にお参りに行ったり、露天の餡蜜を食べたりして最後まで楽しみました。別れるとき、ホストファミリーが英語で「I miss you. I like you.」と何度も言ってくれたことがとても印象に残っています。ホストファミリーは私を本当の家族のように扱ってくれ、言葉のひとつひとつに愛を感じました。私は語学力をつけることばかり考えていたけど、心の通じ合いには何の壁もないと感じました。ホストファミリーとは今でも連絡を取り合っています。彼女が来年、日本に来たときは私が案内すると約束しました。私たちがこうしてひとつひとつ交流を重ねていくことが、お互いの文化を知り、理解することにもつながると思います。国同士のもめごとはよく分からないけれど、私たちは友達です。彼女との出会いは私を豊かにしてくれました。しかしこれは、現地に行って初めて感じられたことです。だからこれからも自分でチャンスを見つけて、積極的に行動しようと思います。そして、自分がした活動をたくさんの人に話し、一人でも多くの人に中国に興味を持ってもらいたいです。最後になりましたが、素晴らしい経験をさせてくださった広島県の職員の皆様、中国四川省の皆様、ホストファミリーにはとても感謝しています。ありがとうございました。

実際に中国を訪れてみて

広島女学院高等学校 1年 神田 菜月

私は今回の研修で、多くの新しい経験と気づきを得ることができました。そして今までの私の中にあつた中国のイメージがとても変わりました。

今回の研修の中で特に印象に残っていることが2つあります。一つ目はIT化です。実際に現地を訪れた時、現地の人々は皆スマホを使って、とても衝撃的でした。買い物をする時やタクシーに乗る時や自動販売機で物を買う時等、スマホのキャッシュレス決済が生活に広く浸透していました。また、現地ではレンタルサイクリングというシステムが普及しており、これもキャッシュレス決済で使用でき一時間約16円で借りられるということにはとても驚きました。日本では現金やクレジットカードを使うことが主流ですが、中国では



IT化等のテクノロジーが日本に比べてとても発展していました。

二つ目はホームステイです。今回はホームステイを2泊し、現地の実際の生活を体験することができました。ここではホストシスターに中国版の将棋「象棋」(シャンチー)について教えてもらったり、ホストマザーが餃子を作ってくれたりと中国の伝統的なものを教えてもらいました。また、ショッピングセンターに連れて行ってもらった時には、建物の規模と照明の華やかさにとても驚きました。さらに、パソコンでアニメの「コナン」を見たりして、日本の文化も中国に伝わっていることを実感しました。

今回のこの研修では、自分から積極的にコミュニケーションをとること、そして現地で直接自分の目で見て聞いて確かめることが大切だと実感しました。特にホームステイではあまり中国語で会話をすることができず、言語力の必要性を痛感しました。次回訪れるときはもっと中国語の勉強をして今回以上に現地の人と話したいと思っています。また違う価値観や環境を知る事で視野が大きく広がったように感じました。私はこの経験を生かして、これからも多くの人に中国に興味を持ってもらうための活動を続けたいと思います。



今回広島県四川省派遣事業に参加に参加でき本当に良かったです。そしてこの事業に関わってくださった方々に感謝します。ありがとうございました。

中国で学んだこと

修道高等学校 1年 阿部 峻也

今回の中国への派遣事業を通して僕は様々なことを経験し、学びました。ここではその中でも特に印象的だったものについて書きたいと思います。

僕はもともと海外への関心が強く、何か海外に行けるような機会があればよいなと思っていたので、今回の派遣事業は僕にとってとても興味を引くものでした。しかし今までに中国語を勉強しようと思ったこともなく、また中国の文化についての知識も乏しい僕にとっては、この中国への研修は少し不安なものでした。しかし近年急速な発展を遂げ、様々な新しい取り組みを進めている中国についての興味が勝り、この研修に参加しました。研修中は驚きと戸惑いの連続で新しい経験を多く積むことができました。日本と違って同じ様式で似た建物が建ち並んでいる街並みは圧巻で、近年で急速に開発が進んだことを感じさせました。また僕は環境に配慮した街作りを推進している成都の街並みに感心しました。成都に行くまでは、中国は環境汚染の大きな要因となる国で、地球温暖化の一因である二酸化炭素排出量も世界一位などといった情報から緑の少ない街並みを想像していたのですが、実際はその真逆で街路樹がいたるところに点在し、ビルやマンションの屋上にも小さな庭が整備されており緑あふれる街並みでした。他にも成都の交通システムには画期的なものがありました。大まかな距離をバスなどの公共交通機関で移動し、残りの目的地までの短い距離は自転車貸し出しシステムを利用するというものです。このシステムは土地が広く、人口の多い中国に適しており、環境にやさしいだけでなく渋滞解消にも繋がります。また曜日ごとに車のナンバーで使用できる車を制限し、渋滞解消のため様々な対策を講じていました。しかし、交通量は日本より多く雨の日は渋滞が起こっていたので、対策が完璧に機能しているわけではないということがわかりました。

この研修を通して、中国は環境に対して配慮の少ない国というイメージが誤っていたということに気づかされました。どの国に対しても今回と同様に誤ったイメージを少なからず持っていると思うので、実際にその国へ行き、その国の現状を自分の目で確認することが、異文化理解への一番の近道なのだと感じました。



中国を見て、感じて

広島県立広高等学校 2年 中村 姫良里

私はこの夏、広島県青少年交流団四川省派遣事業に参加させていただきました。私にとって初めての海外でした。現地で見るとものひとつひとつが新鮮でわくわくしました。その中でも印象に残ったことが2つあります。

1つ目は現地の人の温かさです。現地についてから様々な場所へ行きましたが、たくさんのお食事を用意してくださったり、中国の伝統芸能である変面を披露してくださるなど、私たちのことを本当に温かく迎えてくださいました。初めは初めての海外ということもあり緊張していましたが、中国の人々の温かさのおかげで気づかぬうちに中国という国に惹かれていく私がありました。また、ホームステイを2日間しました。そこでは私にとっても優しく、そして私の決してうまくない中国語を理解しようとしてくれるホストファミリーの温かさに感激しました。ホストファミリーと遊園地へ行ったこと、作ってくださったご飯と一緒に食べたこと、たくさんお話をしたこと、全てが私の宝物です。このような経験から、言語が異なる国の出身者同士でも、お互いを理解しあい、交流することが一番大切なことだと改めて実感することができました。

2つ目は都市の発展です。広島県よりも高い建物がたくさんあり、ショッピングモールも充実していてとても驚きました。そして、ほとんどの人がスマートフォンでの支払いをする傾向にあります。このような発展は私の想像をはるかに超えるものでした。現地ではわからないことを見て感じるすることができました。

この6日間、様々な体験、発見をすることができました。今まで日本という国しか見てきていなかったけれど、今回中国を訪問したことで他国の素晴らしさに触れることができました。そして、インターネットなどからの情報だけに流されるのではなく、現地へ実際に行くことによりその国の見方が180度変わることがわかりました。これからこの経験を活かして中国の良さをまずは身近な人へ、そしてたくさんの人へ伝えることができれば嬉しいです。また、もっと視野を広げることで様々な国と交流を深めていきたいと思えます。

最後になりましたが、広島県青少年交流団四川省派遣事業に携わってくださったすべての人に感謝します。本当にありがとうございました。



日本の原点

広島商船高等専門学校 2年 永目 瑠璃

私は去年台湾に留学していて、中国語や台湾の文化を学びました。その学んでいる過程で台湾や日本のルーツとなった中国を実際に見て、感じてみたいと思い、今回の四川省派遣事業に参加しました。

四川省に行く前の四川に対する私のイメージは中国の西南部にあるあまり発展していない省だと思っていましたが、成都や内江へ実際に行ってみるとかなり発展していて、高層ビルや大きなショッピングモールや高級車が走っていました。

しかし、発展している都市から離れ、農村地区を見ると舗装されていない道が目立ち、トタン屋根の家もあり、貧富の差を感じました。

成都では台湾と同じくバイクの二人乗り、三人乗りは当たり前でヘルメットをかぶらないという交通マナーでした。信号機や横断歩道の無いところで車の間を抜けながら大通りを渡っている人を見て、車やバイクにぶつからないか不安になりました。

また日本ではトイレの水はすぐに流れ、どこのトイレでもほとんどトイレットペーパーがついています。しかし中国のトイレはトイレットペーパーを流せず、そもそもトイレットペーパーがないため、ティッシュを持ち歩かないといけませんでした。他にも敷居がない「你好トイレ」というものがあり、とても驚きました。

中国では人の優しさや温かさを感じました。現地のバスガイドさんや補助をしてくださった現地のスタッフの方々は中国や四川についてとてもためになることをたくさん話してくださいました。実際に中国語で現地の方と話すことで、コミュニケーションをとり、一年間学んできた中国語に自信を持つことができました。

最後に今回の青少年交流団四川省派遣事業に関わり、支援してくださった全ての方々に感謝申し上げます。



四川省訪問報告書

広島市立舟入高等学校 2年 蛭江 日菜実

中国ではたくさんの経験をした。

私は2日間あったホームステイが1番印象に残っている。私の行った家は陳ちゃんという友達のご飯を毎回作ってくれた。家はベジタリアンということで、野菜中心でとても体に優しいメニューだった。日本の家庭料理と違ったことは、油が多く、炒めてある料理が多かったことだ。その一方、箸や食器などは日本と似ていて、家庭料理を通して文化の違いや同じところを見つけることが出来た。ホテルで食べるご飯だけだと、分からないことも多いので、このような体験ができるのは、ホームステイの良いところだと思う。寝室にある木製のベッドには布団のかわりにござがひいてあり、暑い気候に適した寝室であった。店に出かけた時は、中国人のお店の人が、とてもフレンドリーに話しかけて下さり、それまでの緊張がとけた。成都市では、成都博物館に行き、中国の未来の計画について詳しく知ることが出来た。何年後にはここに線路を作り、街と街を繋げるなど、とても細かく計画してあり驚いた。武侯祠などでは中国の長い歴史についても知ることができ、改めて中国の歴史の深さを感じることができた。また、街の至る所に自転車があり、環境への配慮が進んでいた一方、家庭には洗濯機がなかったり水道があまり整備されていないようだった。テレビなどのメディアだけでは分からない中国にあるたくさんの「差」を見つけることができた。これらのことから、文化の違いを始め、多くのことを身をもって体験できた研修になった。この貴重な経験をこれから活かしていきたい。



四川を見て

広島市立舟入高等学校 2年 講武 遥菜

メディアが伝える中国の姿は、果たして本当なのか？と、ふとそう思い、私は今回のプログラムに参加することにしました。

まず、出国前の私の中国のイメージはというと、あまり良くはありませんでした。しかし、実際に訪れてみると、私のイメージそのものに偏見があることが分かりました。私が今回の訪問で一番印象に残ったのは、「中国は親切な人が多い」ということです。ホームステイ先では、おいしい料理を振舞っていただき、ホストシスターとは一緒に買い物を楽しむこともできました。おすすめのお土産を教えてくれたり、私の行きたい店にも案内してくれました。

今回の訪問で、私はメディアが伝える中国の姿とは違った姿を看ることができました。この貴重な体験を周りに伝えるだけでなく、これからはメディアによるイメージを鵜呑みにしないように努めたいと思います。



四川をアジワウ あじわう 味わう

広島市立舟入高等学校 2年 福本 有花子

私はこのプロジェクトで初めて中国に行きました。中国については歴史的建設物が多く残っている、パンダがたくさんいることや中華料理のイメージしかありませんでした。しかし、中国に実際に行ってみて、想像をはるかに超える最新技術と歴史が残る、今昔が交差する国だと知りました。

錦里散策や成都市計画館、博物館などに行くとそのことがよく感じられました。錦里や博物館では、私たちが思うような中国の歴史が詰まったところでした。成都市計画館では、成都市の未来がITを駆使しながら作られた成都市の模型を見ました。空港がもう一つ建設されることや街が多く開かれていくことなどから、世界とのつながりも増える、グローバル化が進んでいる場所でした。また、街並みも高層ビルが連なっていて進化した街というのが伝わってきました。

私は中国に滞在中、二日間ホームステイをしました。ホームステイを通して、中国の家庭について知ることができました。ホームステイ一日目では、中国の家庭料理をふるまっていただきました。日本の家庭料理とは少し異なり、一汁三菜の食事体系ではなく、ごはんとおかずが何皿かあるような食事でした。食後にはホストファミリーと一緒に散歩に行きました。散歩から家に帰るときに、ホストファミリーの近所に人たちと少し喋りました。その時、近所の人たちから日本の曲も聴くよと言われた時、国だけでなく、人同士にも何らかの形でつながりがあるのだと身を持って感じました。ホームステイ中に中国語は全く話すことができませんでしたが、「シェイシェイ」の一言とボディランゲージを使って会話を楽しめました。ホームステイ中にお風呂などのカルチャーショックを受けましたが、実際に行くことでそれを知ることができたので良かったです。

中華料理も滞在中にたくさん食べましたが、日本で食べられる中華料理よりも種類も多く、味が濃くて辛くておいしかったです。

最後に、この度はとても貴重な経験をさせてくださりありがとうございました。広島から約6時間で話す言葉も、文化も違うことのおもしろさを自分の目で見て、肌で感じることができました。また、滞在中に言葉の壁というものを強く感じたので、これから言語習得にさらに力を入れていきたいと思います。今回学んだことを、親しい人から世界へと広めていきたいと思います。本当にありがとうございました。



四川省訪問報告書

広島県立広島国泰寺高等学校 1年 阪井 奏澄

私はこの四川省派遣事業で主に3つのことを感じ、学ぶ事が出来ました。

1つ目は異文化理解についてです。今回の訪問で一番印象的だった事はホームステイです。日本の民家と大きく異なる点も多く、とてもカルチャーショックを受けましたが、ホストファミリーにとっては普通の事なのだと気づきました。そしてそれを拒否せず異文化として受け入れ、理解する事が大切なのだと感じる事が出来ました。

2つ目は言語についてです。今回の訪問では多くの博物館や記念館を見学しました。そこで感じた事は語学の重要性です。館内の表示の多くは中国語と英語で書いてあり、日本語表記はほとんどありませんでした。英語は世界の共通言語であり、英語を身につける事でもっと多くの事を知り学ぶ事ができると改めて思いました。またホストファミリーは全員中国語しか話せなかった為、伝えたい事が上手く伝えられない苦しさを初めて味わい、言語の壁を感じました。そして言語を学ぶ意味や大切さを感じる事が出来ました。しかしたとえ共通言語がなくても、ホストファミリーととても楽しい時間を過ごせたという体験も、私にとって大きなものになりました。

3つ目は中国の発展についてです。ホームステイ中は翻訳アプリを使って、ホストファミリーとコミュニケーションをとっていました。私のスマートフォンのアプリで翻訳すると上手く伝わらない事が多かったのですが、ホストファミリーのアプリを使うとスムーズに伝え合う事ができ、中国の技術の発展を感じました。また、街には高層ビルが何個も立ち並ぶ風景が多く見られ、そこでも経済の発展を感じました。一方街中で伝統的な建物が見られる場面も多く、伝統と発展の2つが共存している国だと思いました。

異文化理解や言語の大切さなど、四川を訪れる前から分かっていた事を身を持って感じられたという事が、私にとってとても良い経験になったと思います。これで終わりではなく、実際に体験した事を私なりに今後の生活に生かし、そして伝えていこうと思います。ありがとうございました。



広島県青少年交流団四川省派遣事業に参加して

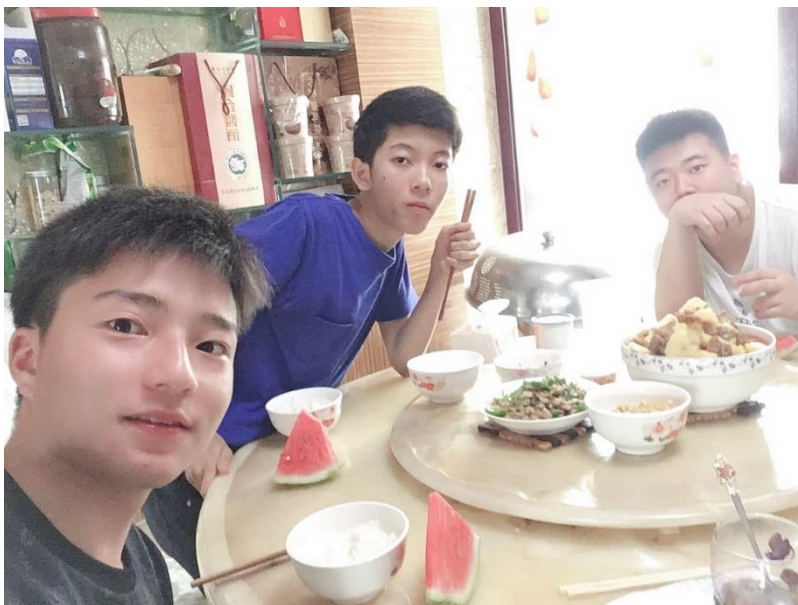
広島大学附属福山高等学校 2年 佐々木 創

今回四川省派遣事業に参加して一番印象に残っているのは二泊三日のホームステイです。その中でも特に夜遅くまでホストブラザーと学校や勉強のことなどの真面目な内容から、日々の生活や趣味、音楽などの幅広い内容まで語り合ったことはとてもいい経験になりました。互いの違いに驚いたり、同じ部分を共感しあったりするのはとても新鮮で楽しかったです。

また、他国の同世代の子がどのような考えを持っているのかを知ることができたことは多様な考えを知るいい機会となりました。異文化との交流を楽しむ中で考えたのは、異なる国、文化の人との合意形成において互いの「違い」を認識することがとても大事だということです。このことを強く感じたのはホストブラザーが僕の携帯に **wechat** をインストールしようとしてくれた時です。彼は **wechat** はどこでも使えるものだと思っていたそうなので、何度もインストールしようとトライしてくれました。しかし、中国では僕のスマホが使えないと知っていた僕はそのことを伝えようとしたのですが、なかなか伝わりませんでした。恐らく彼の中の常識と僕の中の常識が異なっており、その違いを理解しあえていなかったなのでお互いの思いを理解しあうまで時間がかかりました。このことをより大きなスケールで考えてみると、例えば平和構築やビジネスなどの際、互いの違いを認識していなければ僕たちのように合意に至るまで多くの時間を要するでしょう。

これからグローバル化がもっと進んでいく現代社会において、互いに違いを認識する重要性は高まっていく一方ではないかと思えます。なので、この経験から得たことを心に留め、世界で活躍出来るような人材になりたいと思えます。また、ここで得た経験を周りの友人を含め、多くの人に伝えようと思えます。

最後になりましたがこの度は四川省派遣事業に参加させていただき本当にありがとうございました。



四川省訪問報告書

広島県立広島高等学校 1年 平下 未悠

私は、8月1日からの6日間、「三国故里の旅・想像を超える四川」日本高校生訪中事業に参加しました。

私は小さい頃、中国大使館を訪れたことがあり、それからずっと中国に興味を持っていました。だからこの事業に参加させていただいたことは、一生の思い出であり経験です。初めての人たちと共に過ごす事、飛行機から見た中国の景色、何もかもが新鮮でした。

中国・四川省に行つて特に印象に残っているもの、それは食です。辛さや味は日本と全く別でした。海の魚がないこと、酢が黒いこと、ハトが食べれるということ、お茶が熱いということ、これらはすべて現地に行ったからこそ知ることができたものだと実感しています。

また食についての一部を学校の成果発表会で紹介したところ、何度もざわめきが起こり、それほど中国の文化が知られていないことを知り、もっとたくさんの人にこの経験を伝えたいと思いました。

さらに中国では、円卓に興味を持ちました。日本の私達は誰も取っていないのをみはからってさりげなくテーブルを回して、日本人の気を使うという文化が中国と違うんだなと思いました。他にもいくつか気づいた事があります。一つ目はキャッシュレス化が日本よりも進んでいるということです。空港の中には現金が使えない自動販売機などがあり、とてもびっくりしました。気になったので日本に帰って調べてみると、モバイル決済が中国が3,000兆円なのに対して日本は70兆円でした。

二つ目は、フレンドリーな人が多いということです。私は中国人じゃありません、と伝えても伝えようと話し続けてくれたり、分からなかったら連れて行ってくれたりしました。しかし私が **Can you speak English?** と聞いても答えてくれない人達が多く、英語が話せない人達なんだと思います。フレンドリーな性格を生かすためには中国で人々は英語を学ぶべきだと思いました。それと同時に、自分も中国語を勉強して、あの時会話できなかった人達と会話したいなと思いました。

つい最近、テレビで米中の貿易問題についてのニュースを見ました。もちろん良いニュースではなく、それを見て中国に対して悪い印象を持っている日本人が多いでしょう。今までは何もすることができませんでしたが、今は私が現地に行つて知った本当の中国を皆に伝えることができます。これからも少しずつではありますが、中国、そして四川省の良さを人々に伝えていきたいです。



四川省の魅力を通して

広島女学院高等学校 2年 大矢美羽

今回、この四川省派遣事業へ参加させていただいて、最も印象に残った事は、中国と日本の関連の深さでした。この研修のスケジュールの中で多くの史跡や建築物の視察させていただきましたが、資料でしか見たことのなかった伝統的な建築物や、まばゆい伝統工芸品を近くで見ることができ、改めて中国という国の素晴らしさや偉大さを実感しました。建物は日本のお寺などの古い建築物と似通っている部分が多く、日本やアジアの国々が中国の影響を受けて発展を遂げてきた事を改めて実感しました。

私が現地に行って、とても驚いた事は、寸分の狂いもなく似たような建物が立ち並んでいたことです。中国は近似しているビルが多いのだろうと思っていましたが、想像を超える以上の高さやそれらがきちんと整列されている姿に圧倒されました。

また、成都市では数多くの高層ビルが立ち並び大都会を感じるだけでなく、至る所に歴史的な建築物が残されており、現代と古代、二つの魅力を感じることができました。

市内だけでなく、閬中古城や博物館などの観光地でも殆どのお店の中では多くの人々がQRコードで会計をしている姿を多く見ました。そして、市内でのシェア自転車を使用する際にも携帯端末をかざして、それらを使用する様子を見てとても衝撃を受けたのを覚えています。

よく、日中関係が悪い原因として、お互いに嫌悪しているという事があげられますが、実際に行ってみると、そのような印象は全く受けませんでした。ホテルや伝統体験をする際にも、多くの方々とかかわる機会がありましたが、どの方も言葉が通じない私達に対して優しく何度も説明して下さり、とても心が温かくなりました。現地の様子を悪いと決めつけてしまうと、その国を知ろうとする気持ちはあまり起こらないと思います。その事は凄く自分自身の視野を狭めてしまう事に繋がってしまいます。

そのようにならないようにする為にも、学校での研修の報告を通じて、現地の素晴らしさ、人々の温かさを伝えることで、これからの両国の人々がお互いに関心を持ちあえる、そんな関係を築いていきたいです。



中国四川省派遣事業を通して

修道高等学校 1年 松川 祐史

今回の視察で、僕は中国の実情を知りました。これまで抱いていた偏見は百八十度変化し、とても有意義な経験をしました。またもとから海外には興味はあったのですが、なかなか実際に行ってみるという最後の一步が踏み出せなかった自分にとって初めてのことで多くの不安が取り巻いていました。例えば、「本当に外国の方とコミュニケーションをとれるのだろうか」、「水利設備は整っているのか」また、「海外は日本より治安が悪いと聞くが、犯罪に巻き込まれることはないのか」など様々なものがありました。しかし、「百聞は一見にしかず」といったことわざがあるように僕はいい意味で中国に裏切られました。たった飛行機で四時間で行くことのできる海を隔てた国はここまで進んでいて広島より何倍もの人々が生活していることを目の当たりにし、度々驚嘆させられました。具体的に言うと、成都の高層ビル群、ホテルのカギが全てカードであることなどといったものが挙げられます。僕がとりわけ驚いたことはキャッシュレス化です。このことが進んでいると認識してはいましたが、ここまで進んでいるとは思わなかったです。俄かに信じがたいですが、もう現地の人は現金を使わないといった時代が日本に来るのも時間の問題だと感させられました。僕たちの若い世代は来るそのような時代に対応していく必要をより求められます。グローバル化が急速に進む社会の中で生き残るためのヒントを今回の視察で得たような気がします。それを抽象的なものから具体的なものにして、新しい扉を開く義務が委ねられていることを再認識しました。

また、伝統的な文化、遺跡や街並みからも多くのことを学びました。先人たちの生活を想像することでまじまじと感じたことがありました。それは僕たちは 3000 年前からつながっていることです。昔から人は誰かの背中を見て成長していき、それが途絶えることなく流れることによって今の技術がある。当たり前なことかもしれませんが、それがどれほど素晴らしい奇跡なのかと思いました。世の中にありふれた奇跡に感謝して生きていこうと改めて確認しました。

今回の視察で今すぐ実生活に応用できることから、今使えなくても将来役に立つものまで、数えきれないほど多くのことを学びました。「井の中の蛙大海を知らず」当たり前から抜け出してみると、様々な視点で見ることができるようになりました。今回のことを学校にも知らせて、共有していきたいと思います。この記憶は一生色褪せないものとなり、広島から世界へ、世界から広島へといったことを実行できるような有能な人材になりたいです。



「三国故里の旅・想像を超える四川」に参加して

広島市立舟入高等学校 2年 入川 芽衣

私は今回の「三国故里の旅・想像を超える四川」が初めての中国への訪問だったため、中華料理や中国の歴史を学ぶことへの期待と全く違う文化に触れあうことへの不安な気持ちでいっぱいでした。しかしながら、四川省に着くと現地ガイドの張さんが丁寧に出迎えて下さり、緊張は無くなり、これからの研修がとても楽しみになりました。

私がこの訪中を通して感じたことは、中国の四川省という地域の中にも人々の生活に大きな差があるということです。

1日目私たちは川劇・変面ショーを見るために成都という四川省の大きな都市の少し外れた所に行きました。ショーの劇場に着く直前までは高層ビルが立ち並び、ブランドショップやショッピングセンターの電飾がとても綺麗な街の中心部という感じでしたが、1つ細い道に入ると、昔の商店街のように露店が立ち並び、とても生活感があって落ち着く雰囲気でした。しかし、道端にはごみが投げ捨てあったりと決して生活環境が整っている、場所ではありませんでした。



また、2、3日目は多くのバスでの移動があり、その際にパーキングエリアでトイレを利用するとトイレットペーパーがありませんでした。日本では考えられないことで始めはとても驚きました。このことをガイドの方に伝えると、「中国は今もまだ発展し続けているところがたくさんあって、5年前はこの高速道路もなくて、今2時間かけて行っている道を一日かけて行っていた。5年後の中国はきっと今と全然違うより発展した都市になるよ。ぜひ、5年後進化した中国を見に来てほしい！」とおっしゃっていてとても印象的でした。今回、発展の過程の中にある中国を訪れることができたことはとても貴重な経験になりました。ぜひ、何年後か、さらに発展した中国を訪れてみたいと思いました。

また私が中国で感動したことは、中国の古くから続く歴史です。日本でも三国志はとても有名です。今回の事業では、多くの三国志に登場する人物の遺跡に行かせていただきました。ちょうどその時、世界史の授業で、中国史を習っていたのでとても親近感をもって見学することが出来ました。様々な施設を見学させていく中で驚いたのは、青銅器の文明です。約5000年も前に写真のような青銅器を作っていたそうです。機械も何もない時代にどうやってこのような青銅器を作ったのかとても気になります。



この研修を通して日本と違うところも似ているところも、どちらも沢山あって、とても興味深かったです。私は今、中国語を学んでいて、中国について知り、言語を学ぶモチベーションを上げたいと思いこの研修に参加しました。実際に中国に行ってみないと分からないことも沢山ありました。この経験を活かし中国に対する理解をより一層深め、中国語の習得に努力したいと思いました。

四川省報告書

広島市立舟入高等学校 2年 大足 心愛

私は、四川省の訪問を通して中国の日本では気づくことのできなかった様々な魅力や、異文化を理解することの大切さだけでなく楽しさに気づくことができました。

私は四川省に行く前、メディアでの報道の影響で中国人や中国という国についてどちらかと言えば悪いイメージを持っていました。しかし、実際はどうかを知りたかったし、中国という日本とは異なる点の多い国を訪れると多くの新しい発見ができ、異文化理解をする上での貴重な経験となると思って四川省に行くことをすごく楽しみにしていました。

私が実際に中国・四川省に行ってみて、まず驚いたことはその食文化です。円卓を囲んで食事をするのも新鮮で良い思い出となりましたが、私はその量と食事内容に特に驚きを感じました。中国では日本で食べることのできないような様々な料理をいただきました。例えば、ハトが丸ごと焼かれた肉や、いろいろな動物の腸や肝臓などすべてが新しく、料理が運ばれてくるたびにほんの少しの不安と次はどんものが来るだろうかという期待やわくわく感がありました。このプログラムの中で多くの種類の料理をいただきましたが、はじめは食べるのに躊躇してしまっても食べてみると美味しいものがほとんどで、帰る頃には本場の中華料理が食べられなくなる悲しさがありました。どの味も忘れられません。特に最後の夜に食べた火鍋は、その辛さから鼻水やくしゃみが出たりしながらも美味しく箸を持つ手が止まらず食べ続けた特別な思い出は宝物です。



また、異文化の中には魅力的なものだけでなくカルチャーショックを受ける部分もありました。特に中国のトイレには衝撃を受けました。中国のトイレはトイレットペーパーがないとても快適だとは言いがたいトイレが多く始めはとても困惑しました。日本のトイレのように洋式で音姫のある快適なトイレは珍しく特別なんだと実感しました。その点では日本は恵まれており、当たり前だと思ってはいけななと感じました。また、中国の街のゴミの多さは想像以上でした。それだけでなく落書きも様々な場所で見ました。そのような点は、メディアにより報道されるものと似たものがありました。しかし、私はテレビで中国の外国語教育は進んでいるという報道を見たことがあり、英語も通じると考えていたのに対して、実際はホテルの方でさえ英語で話しかけても中国語で答えてくださることが多く意外に感じる部分もありました。

このプログラムの中で感じた中国の一番の魅力は、観光資源の多さです。中国ではその長い歴史がとても大切にされており、様々な文化財や文化遺産などがありました。昔の人々の知恵や苦勞の塊である建物や作品だけでなく、伝統的に受け継がれてきた影絵の技術やダチョウの卵に具材を入れて作られる伝統料理などがあり、またその歴史や伝統を語り継いでいくための施設の充実さ・機会の多さはとても魅力的だと感じました。歴史的景観がしっかり守られており、訪れるだけでタイムスリップしたかのような不思議な感じも味わえました。

私が一番印象に残っているのは、中国の伝統的な変面ショーです。面が変わるその瞬間の驚きは計り知れないもので、一瞬にして劇場にいた人々を魅了していました。外国人観光客でも楽しめるようにセリフが多言語で書かれた電光掲示板もあり、世界の人々を一瞬にして驚きに包み、舞台に夢中にさせるその変面ショーの力に圧倒されました。思い出すだけであの空間に戻りたい気持ちになるくらいです。

最後に、このプログラムに参加して四川省で様々な体験ができたことを本当に幸せに思っています。

この経験を活かしてこれから海外に行ったときなど、異文化理解を楽しみ様々な学びを得たいです。

広島県青少年交流団四川省訪問事業報告書

広島市立舟入高等学校 2年 高雄 希

私が今回のプログラムに参加した理由は、中国の歴史に興味があり歴史ある遺跡の多く残る四川を訪れることで学べると思ったからだ。

私たちは今回の事業で多くの歴史的遺産を訪れ、5000年の歴史を持つ四川の文明を原始から学んだ。変面ショーで現在の中国を象徴するような劇を見、原始の遺跡を見て学び、詩の朗詠をするなど幅広い体験をした。そうした中で私が最も印象に残っているのは、剣門関を訪れたことである。ただ、その建物を見るというだけではなく、2000年前の人々も同じように歩いた道を通って山を登ったことで、遺跡をより身近に感じた体験となった。唐代に剣門関に登ったという李白の博物館を前日に訪れていたことも体験をより深い学びとしてくれた。

この六日間のプログラムの中で、急速な発展を続ける中国の中に生きる長い人の営みの美しさを感じた。景観や文化の保存と発展の両立は中国、日本両国とも課題であると思うのでこの体験を生かし、課題の解決策について考えたいと思う。

